

“展・店” から “てん・てん” そして “ ● ● ● ”

令和3年度 宝塚市市民文化賞受賞記念

講演会

入場
無料

<先着100名> 予約不要

& シンポジウム

宝塚文化創造館

1F 講堂ホール

11/3 木祝 13:00~15:00

トークショー

まちに仕掛ける宝塚アート

第1部 てん・てん20年を映像で振り返る

大野良平 (美術家/宝塚アートプロジェクト代表)

第2部 座談会 大野良平

笹埜能史 (美術家)

篠原克治 (元芸術環境計画「かまぼこ」主宰、美術家)

仲清人 (里ゾー夢主宰/美術家)

司会 坂上義太郎 (BBプラザ美術館顧問・元伊丹市立美術館館長)

<質疑応答>



“てん・てん”参加アーティスト達による

パフォーマンス 大会 15:00~17:00

花のみち・さくら橋公園

子どもたちの作品展示 10:30~17:00

(宝塚ぼうさい劇場withびっくり箱/10月16日にて制作)

宝塚文化創造館 1F 講堂ホール

※講演会&シンポジウム開催時間帯は観覧できません。

協力:(公財)宝塚市文化財団

後援:宝塚市 助成:宝塚市文化芸術活動再開支援事業補助金

現代宝塚 美術展

Takarazuka
Contemporary
Art
Exhibition
TEN・TEN

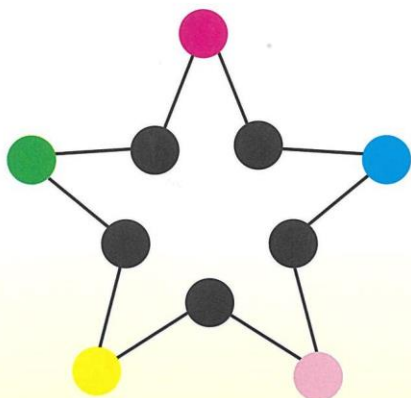
2022
てん

てん

てん

てん

今年トークショーと
パフォーマンス大会のみ開催します



宝塚アートプロジェクト(TAP)のシンボルマークには
宝塚市内のアート会場を線で結び、場と人々を繋げる意味があります。

主催/宝塚アートプロジェクト

お問合せ/宝塚アートプロジェクト(代表:大野) Tel: 080-1437-3811

f www.facebook.com/arttenten



"展・店"から"てん・てん" そして "・・・"

いまから20年前の2002年12月。宝塚南口駅前サンビオラ3番館の商業空き店舗を活用して「宝塚現代美術展・店」が開催されました。この展覧会の名称には、展覧会の「てん」と空き店舗で開催するというので店の「てん」。ふたつの「てん」をかけていました。かつては隆盛を誇っていたサンビオラ3番館でしたが、当時は空き店舗が目立つ厳しい状況下にありました。そこで、まちづくり推進の民間会社が仲介となり、サンビオラ3番館1階から2階16区画の空き床を「ギャラリー」として市民活動団体等に安価で貸し出す試みがなされたのです。

作家が作品を発表する場合は、美術館やギャラリーなどホワイトキューブと呼ばれる展示空間がつねです。鑑賞者は、作家(同業者)、コレクター、美術評論家など作品を観ることを目的とするひとに限られます。しかし、商業店舗での展覧会は異なります。全くアートに関心がなくても買物帰りに自然に現代アートに遭遇することになります。アートはつねにギャラリーに展示されていて額縁に納まっているものと思い込んでいるひとなら「何だ！これは？」ということになるでしょう。いわば身近に生粋のアート作品に触れることができる。作品についての感想は様々ですが、アートをとおして市民とコミュニケーションをとることが本展覧会「てん・てん」の醍醐味かも知れません。

展覧会にとどまらず、座談会、子どもたちとのワークショップやパフォーマンス等を取り入れ、さらに市民とのコミュニケーションの輪を広げてきました。また、マンガの神様、手塚治虫さんが幼少期から二十歳過ぎまで宝塚に居住されていたことから、「手塚治虫がおっ展」と銘打った展覧会や座談会を企画しました。「てん・てん」に多くの阪神間のアーティストが賛同してくれました。その後、「おっ展」は「マンガふえすた」へと展開。内容も拡充し多くの市民を引きつけることができましたが残念ながら活動の拠点となるサンビオラ3番館が閉鎖。2002年から2007年まで、9回の「宝塚現代美術展・店」、6回の「宝塚アーと寺子屋座談会」の開催をもって、一先ずは幕を降ろすこととなりました。

4年間のブランクを経て、10年前の2012年に「てん・てん」を再開。母体となる「宝塚アートプロジェクト」が立ち上がりました。宝塚は音楽のまちであると同時に美術のまちでもあるはず。空き店舗からまちへ飛び出すアートへと発展したのです。宝塚中心市街地を流れる武庫川を挟んで左岸と右岸。アートを介して人々が周遊する。まちに点在するアートの点を線で結ぶことを基本コンセプトとしました。宝塚文化創造館、ガーデンフィールズ跡地、空き室となったアパート、駅前公園、自転車駐車場外壁、宝塚文化芸術センター庭園、街中のカフェ、花屋さんなど回を重ねるごとに展示会場は広がりを見せました。

まちにアートを仕掛けて10年。「てん・てん」のリピーターも増え遠方からの来場者も増加傾向にあります。今年は、旧「てん・てん」から20年。新「てん・てん」から10年の節目となります。従来の「てん・てん」はお休みとしますが、令和3年度宝塚市市民文化賞受賞記念として「てん・てん」の振り返りと今後の展望を語るトークショーを開催いたします。

あわせて、市内子どもたちのアート作品展示や「てん・てん」参加アーティストによるパフォーマンス大会をお楽しみください。

多くのご来場をお待ち申し上げます。



写真/第10回 宝塚現代美術てん・てん2021 パフォーマンス大会より